

平安京右京三条二坊十四町跡

発掘調査現地説明会資料



(馬の絵の細部)

1998年6月20日

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条二坊十四町跡発掘調査現地説明会資料

場 所	京都市中京区西ノ京下合町1番地
期 間	1998年3月～継続中
調査面積	約800m ²
調査主体	(財)京都市埋蔵文化財研究所

1 調査経過

今回の調査地は、平安京右京三条二坊十四町にあたります。今まで周辺で行なわれた発掘調査の成果などから、平安時代の道路の三条坊門小路（現在の御池通）と道祖大路（現在の春日通）の交差点が確認されることが予想されました。平安京の町割りの基本単位である町（1辺120m四方の道路に囲まれた区画）の北西隅に当たるわけです。

平安時代の遺構面は、現在の地表面より1.5mから0.7mのところで見つかります。この厚い堆積は、現代の盛り土の他に、水田の耕作土や天神川の氾濫による土砂の堆積によってなされたものです。平安時代の遺構面では、当時の生活の痕跡（遺構）である建物跡や井戸、道路の側溝などが確認されました。また、井戸からは、平安京で初めて馬の絵が描かれた木製品も出土しました。

2 遺構

調査区の西側では、平安時代の道路の道祖大路（幅24m）の東側溝が、北端では三条坊門小路（幅12m）の南側溝が確認されました。また、その交差点も調査することができました。平安時代の法典である『延喜式』には、大路の側溝は幅4尺（1.2m）、小路の側溝は幅3尺（0.9m）と記載されていますが、今回調査された小路の側溝は幅3m、大路は、周辺の調査成果と合わせて、幅10m以上と川のように大規模なものであることがわかっています。側溝は、当初は規定通りに作られていたと思われませんが、側溝に流れる水の量が、何らかの理由で増えたために大きく作り替えたものと考えられます。また、道祖大路東側溝の東側には、南北方向の柵1があります。これは、側溝が川の様になった段階で町の西端を柵でもって区画し直したのと考えられます。

建物跡は、現在までに6棟が確認されています。大きくA期とB期の2時期にわかれます。A期が9世紀の中頃、B期が9世紀の後半から10世紀の初頭に当たります。A期の建物は、建物1～4です。建物1は、東半分が調査区外となっていますが、東西棟の身舎に南庇^{ひさし}がつく建物です。この中で中心的な建物でしょう。建物2～4はいずれも小規模な建物ですが、建物4の南側には井戸3があります。この井戸は、小規模なもので飲料水以外の補助的なものでしょう。この時期の宅地の規模は、4分の1町程度と考えられます。B期の建物には、建物5と6

があります。建物5は2間×4間の身舎に西庇の付く南北棟です。建物6は、2間×3間の総柱建物です。この時期には、宅地の北西部に井戸1が作られます。宅地の規模は、調査区外へ広がると思われますが、規模は明らかではありません。

3 遺物

遺物は、溝や井戸などから9世紀の中頃から10世紀の初頭までの土器などが出土しています。出土した遺物の中で特筆すべきものに動物の絵が墨書された折敷があります。

折敷は、井戸1から底板のみが出土しました。時期は出土した土器から9世紀の中頃と考えられます。大きさは、厚さ2mm、長さ270mm、幅107mm以上で下部が欠損しています。絵は、表裏両面にありますが、折敷として使われなくなった後、二次的に利用されて描かれたようです。描かれている動物は、両面共に全体のプロポーションから馬と思われます。折敷としては裏面となる方がシャープな線で鮮明に描かれており、以下に少し述べておきます。頭の部分には、轡や手綱などを描いているようですが、何を描いているのかははっきりとはわかりません。頭から胴に至る部分には、たてがみが描かれています。胴の部分には、鞍などありません。脚の部分は、欠損しており不明です。表面も馬と思われますが、筆使いが異なるように見え、裏面とは別人が描いた可能性があります。

馬の絵が描かれた木製品は、平城京や静岡県伊場遺跡など全国で20例以上出土しています。それらの多くは、厚さ5mm以上の板状で、絵は片面にのみ描かれています。中には紐を通す為の穴がつけられているものもあり、まさに絵馬として使われた事をうかがわせます。今回出土したものは、表裏両面に描かれている事や、折敷の二次利用であることなどの相違点があります。絵馬である可能性もありますが、描かれた目的や利用方法は現在検討中です。

4 まとめ

今回の調査によって、4分の1町規模の宅地の存在や道路側溝の河川化、その交差点をみることができました。また、平安京で初めての動物の絵画資料の出土など多くの成果を得ることが出来ました。

平安京の西半分である右京は、早くに廃れるとよくいわれます。確かに今回調査された遺構も、9世紀の中頃から10世紀の前半のものがほとんどです。しかし、そこには50年あまりの短い時間の中で、道路を河川化しても平安京の区画を守ろうとした事や、その中で幾度かの建物の建て替えを行うなど、当時の人々の生活が伺えます。折敷に描かれた馬は、馬の絵としては稚拙にもみえますが、それがかえって1100年間の時間の距離を短く感じさせてくれるとはいえないでしょうか。

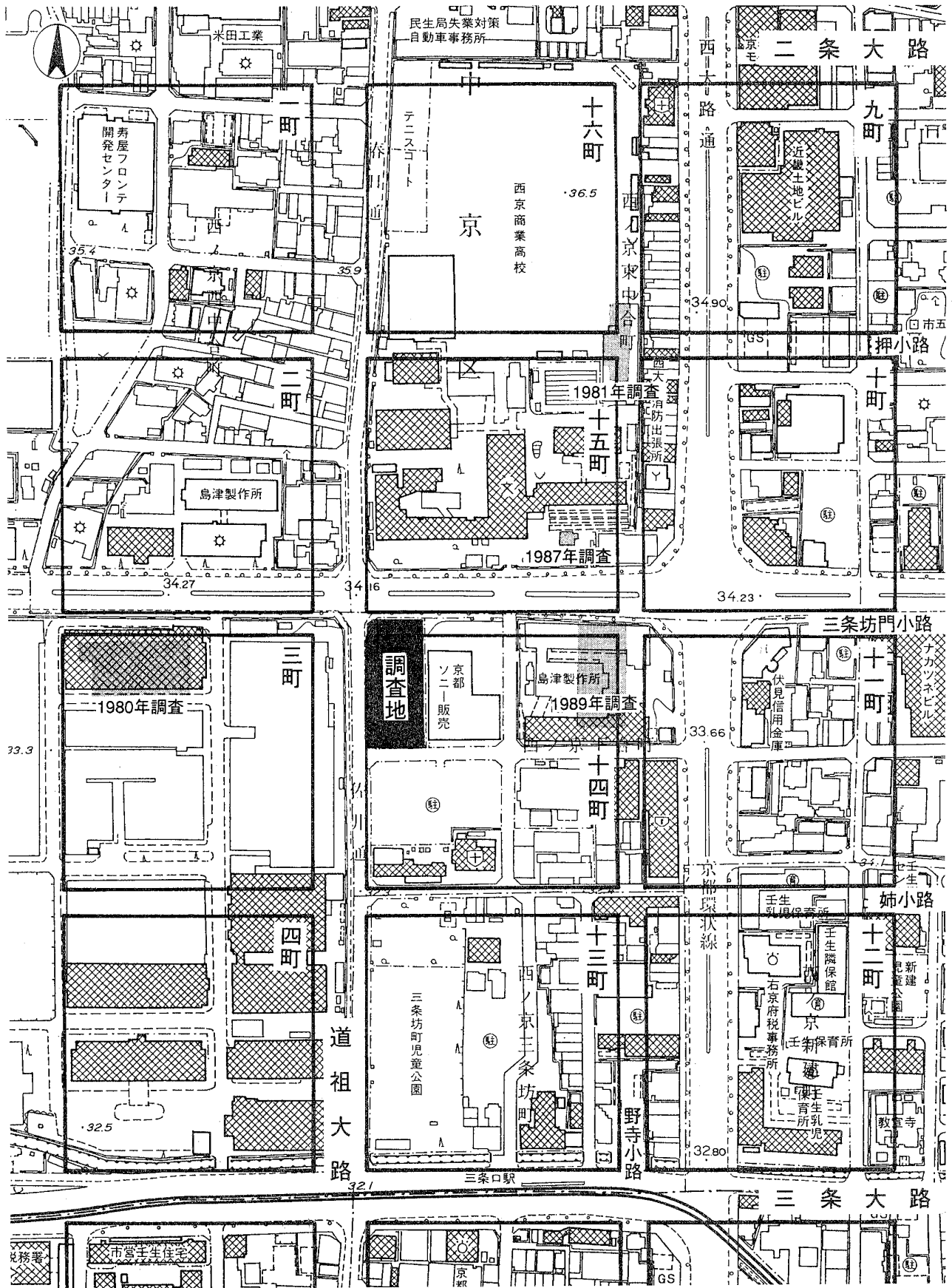


図1 調査位置図 (1/2500)

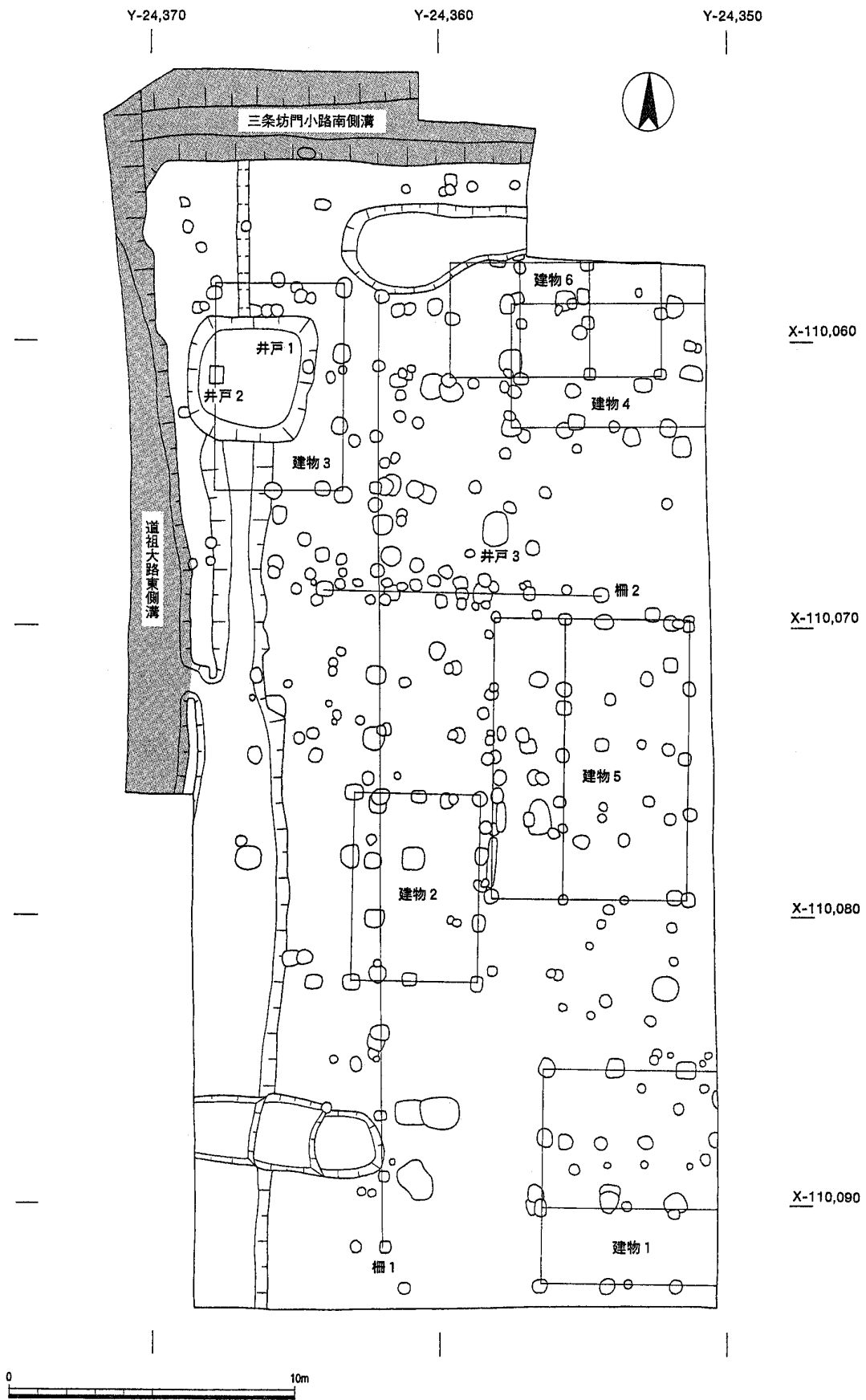
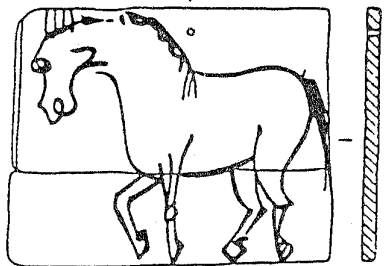
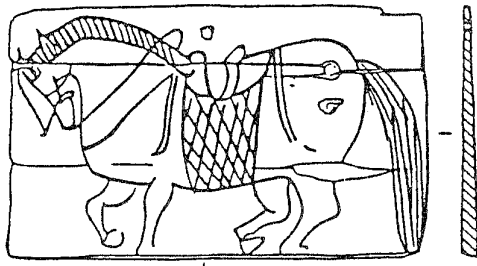


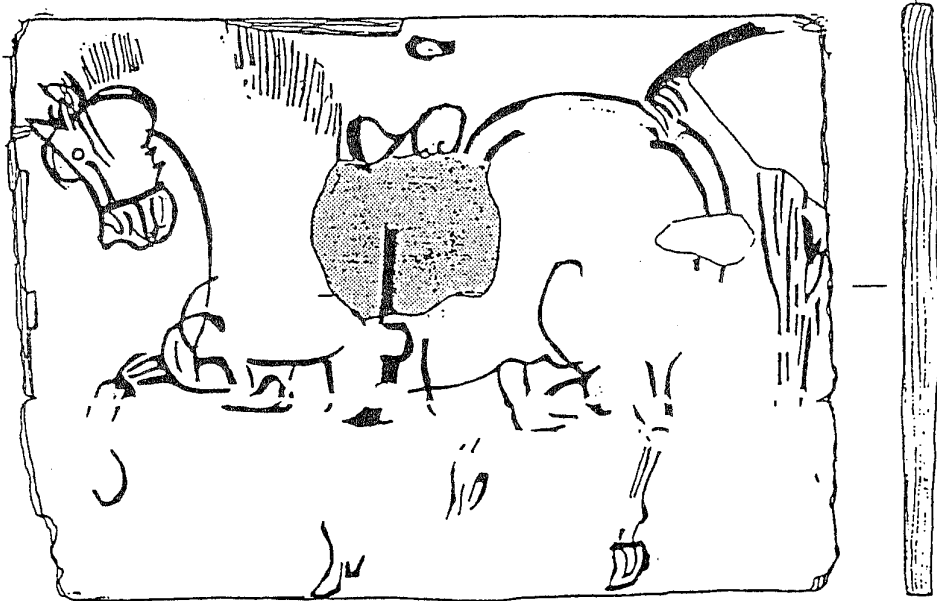
図 3 調査区平面図



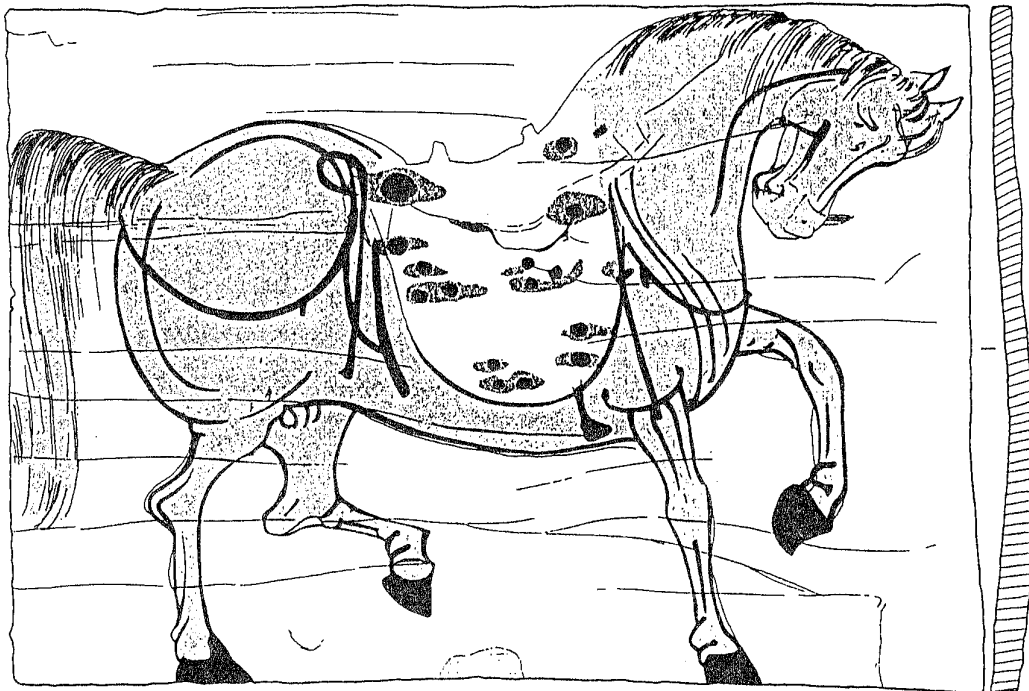
静岡県伊場遺跡



静岡県伊場遺跡



滋賀県十里町遺跡



各地の出土絵馬 (1/2)

奈良県平城京跡

図4 参考資料

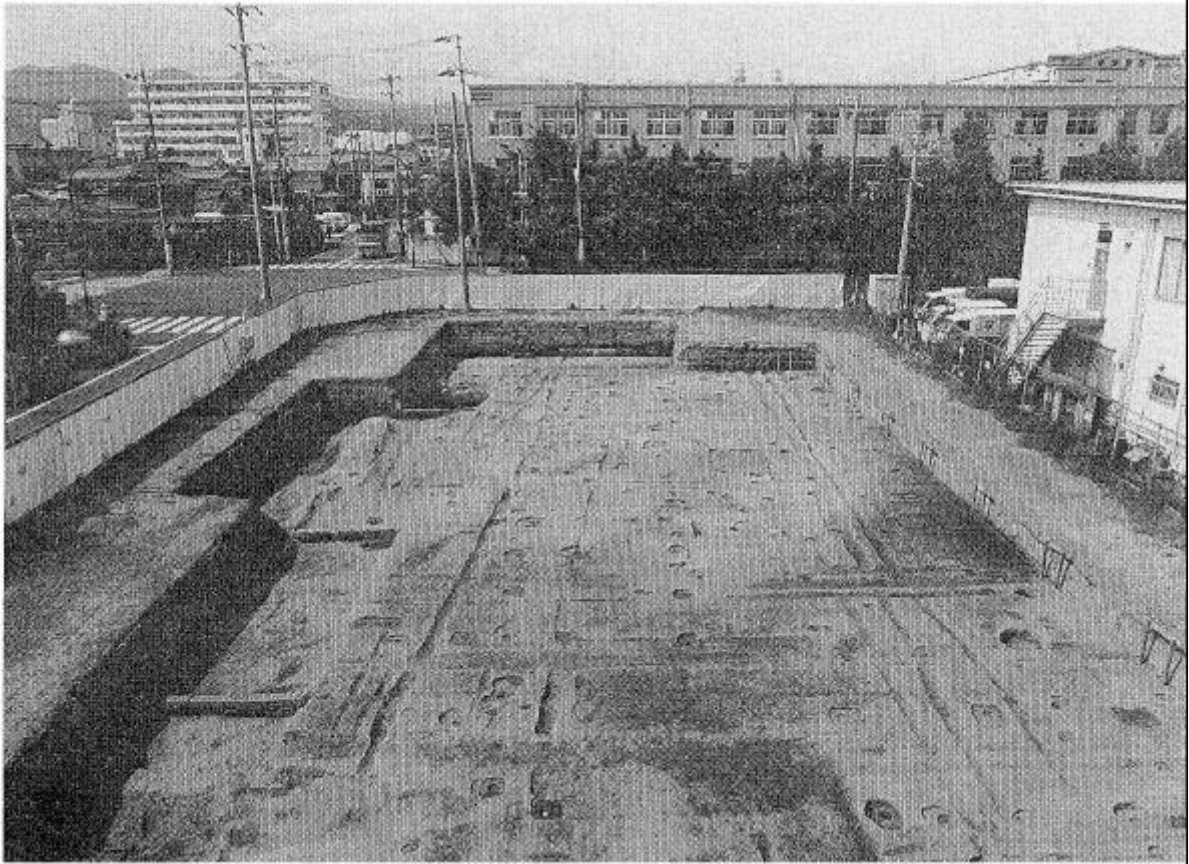


写真1 全景（南から）

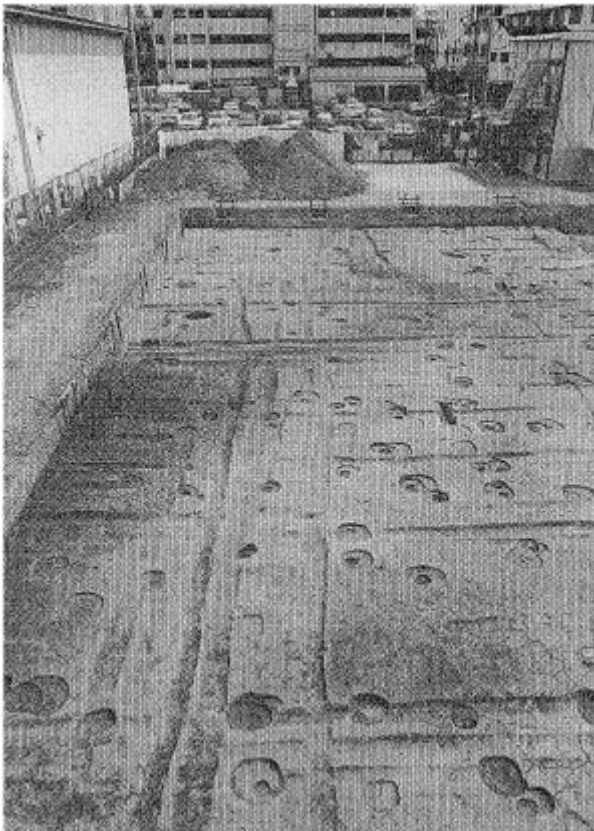


写真2 調査区東半部柱穴群（北から）

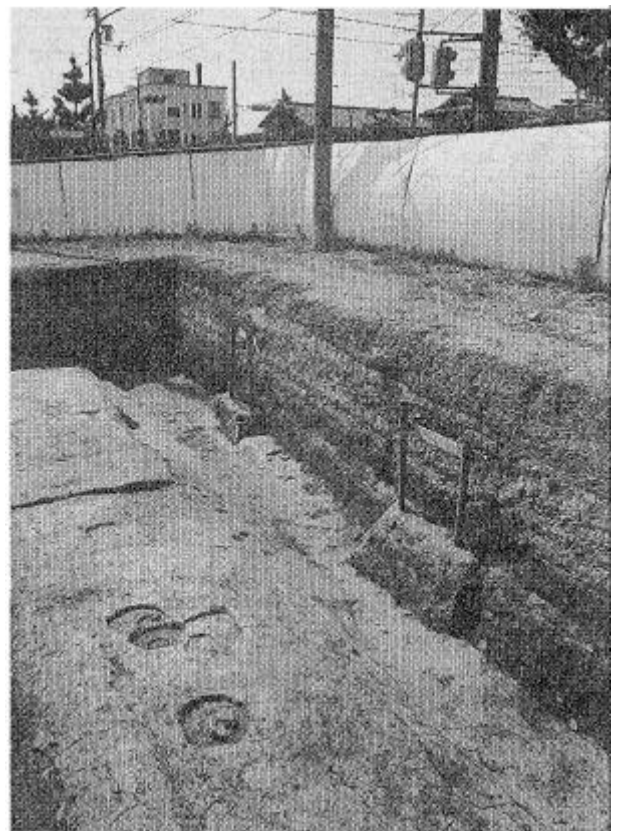


写真3 三条坊門小路南側溝（南東から）

